



Kimiko Isa House
伊佐 君子邸
早良区高取1-1-20

- 用途／住宅
- 完成年月／1882 (明治15) 年頃
- 所有者／伊佐 君子・伊佐 裕

にぎやかな西新商店街を藤崎へ歩くと、店舗を下駄ばきにした中高層マンションが両側に迫りはじめる。そうしたビルの谷間に、敷地間口12間(けん)ほどの端正な町家がまさに時を超え建ち続けている。明治14年に米穀店として建てられたこの町家は、重厚な土蔵造り二階建ての主屋(間口6間)と副屋(間口4間)を平屋でつなぐ構成で、二階の出格子と車庫部分を除けば、非常によく当初の姿を留めている。内部を含めこの地の町家の原型を示す文化財としての価値も高いと言えよう。何より素晴らしいのは、あるじがその町家を実に美しく住みこなしていることであり、よく手入れされた瓦、掃除の行き届いた細やかな格子や洗い出しの腰壁、犬走りなど、明治初めの薫りがここには漂っている。

(審査委員 西山 徳明)



一般表彰 THE 18th FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD



Sala Carina

サーラ・カーリーナ福岡

中央区御所ヶ谷111

- 用途／飲食店
- 完成年月／2003 (平成15) 年4月
- 所有者／今井 正三
- 設計者／(株) 白川直行アトリエ
- 施工者／永和建設 (株)

閑静な住宅街に立地するレストランである。もともと地盤のやや高い敷地だったのを利用して、内側で地面を掘り込み、建物を沈めてその姿を見えなくしている。道からは石垣に食い込んだ一週半の白い妻壁が見えるだけだ。そして、このファサードからは想像できない客席空間が奥に広がっていて、来訪者を楽しませてくれる。工事の際に除去された石垣が復元され、敷地内の木々も可能な限りそのまま残されたことで、かつて邸宅だった時代の面影が景観として受け継がれている。建物をあまり主張させずに、存在を潜ませることによって地域環境に寄与する、そういう建築のあり方を示す好例である。

(審査委員 菊地 成朋)

